なぜ急ぐ 県民懐疑

安保法案 参院委可決

説明不足、不安なお

「自衛に必要」の声も

集団的自衛権の行使を解禁する安全保障関連法案が17日、参院特別委員会で可決された。同日までの審議を踏まえ、県民からは、日本の安全保障の観点から理解を示す意見があった一方、政府の説明不足や多くの国民が反対する現状、戦争に巻き込まれる不安などから、可決を急いだ政府・与党の姿勢を疑問視する声が相次いだ。（取材班）

小浜市竜田の会社役員平野泰之さん(43)は「政府の答弁には一貫性がなく、あまりにも性急。反対の声を真摯に受け止めてほしい」と批判。「法案を争点に総選挙で国民に信を問うべきだ」と注文した。

「長年、自民党を支持している」というあわら市中番の会社員徳丸滋さん(47)も「安定していない政府答弁を見ると、結論を急いでいると感じる。国民の声をくみ取っているとは思えず、議論を尽くすべきだ」とした。

説明不足を指摘する意見も目立つ。福井市つくも2丁目の自営業山本健一さん(58)は「国民に直接、説明してほしい。法案の中身は、分かったようでまだ納得できない部分がある」。同市文京5丁目の学生大熊侑香里さん(20)は「自衛隊がどのような状況でどこに行き、何の活動をするのか。日本が外国にどのように協力するのか曖昧」と話した。

安保法制反対をアピールする市民＝17日午後6時10分ごろ、福井市大手3丁目

戦争に巻き込まれることへの不安も根強い。鯖江市二丁掛町の会社役員谷健太郎さん(28)は「戦争をやる方向にしか見えない。憲法にのっとっておらず、諸外国に批判されないためだけのようにも感じる」。越前市広瀬町の音楽講師山本清恵さん(50)も「若い人が戦争に行く状況を招くのでは。母親はみんな心配していると思う」と懸念する。美浜町久々子の自営業中西みい子さん(75)は「他国軍の後方支援として自衛隊が派遣されると、相手国から攻撃を受けるのでは」と述べた。

一方で、法案に理解を示す意見も複数聞かれた。福井市花堂南1丁目の主婦上木浩子さん(55)は「戦争に直結するものではないと理解している。現状では自衛隊が物資輸送で海外に出ていて危険に遭った場合、隊員の命が助からない」とした。同市加茂河原3丁目の無職小川滋水さん(75)は「私たちの生活を脅かす事態への自衛隊派遣は仕方ない。中国などに強い姿勢を見せておくことも情勢から必要だろう」と指摘した。

2児を子育て中の大野市田野の主婦堀井結香さん(31)は「自国を守るために自国が動くのは当たり前。周辺国の脅威も高まっている」とした上で、「子どもたちが強制的に戦地に送られるということにならない限りは困るが、現時点で心配はしていない。ずるずると戦争に巻き込まれるようなことがないよう、きちんと判断してくれると信じたい」とした。

県内野党 抗議の声

3党代表ら 福井で街頭演説

民主、共産、社民各党の県内組織の代表者は17日夜、福井市中心部で共同の街頭演説を行い、安全保障関連法案が参院特別委で可決されたことに抗議の声を上げた。

県内の市民団体などでつくる「ストップ！安保法制、県民集会実行委員会」が主催した。民主党県連の山本正雄代表は「幸福、学力、体力日本一の幸せな福井県をつくろうとしているときに、国はとんでもない方向に向かっている」と糾弾。「特別委での可決は認めていない。皆さんとともに法案粉砕へ頑張っていきたい」と語った。

共産党県委員会の南秀一委員長は「特別委を見ていると、政権がいかに国民の声に耳を貸さないかが分かると同時に、こうでもしないと法案が通せないもろさも感じる。戦いはこれからだ」と力を込めた。

社民党県連合の龍田清成代表も「安保法制は憲法違反である上、（集団的自衛権の公使容認を）閣議決定で決めるという手続きの問題もある。民主主義を破壊する行動だ」と語り、法案に反対する声を上げるよう呼び掛けた。

緑の党前運営委員の笠原一浩弁護士や九条の会・ふくいの屋敷紘美事務局長らもマイクを握った。市民約50人も「強行採決許さない」などのプラカードを掲げ、道行く人に法案反対を訴えた。（坂下亨）

9/18 福井